

AIWFF2010 デイリーニュース

9月9日

木曜日

あいち男女共同参画財団
企画協働課内

電話 (052)962-2512

http://www.aiwff.com

明日・明後日 チケット情報

- ▼売行き状況
○余裕有、△残少、×完売
●…観客賞の投票有
- ▼9月10日(金)
⇒ウィルホール
○「プリンセス マヤ」(10:00)
○「嗚呼 満蒙開拓団」(14:00) ●
○「フローズン・リバー」(19:00)
⇒大会議室
○「祝の島」(10:00) ●
○「月あかりの下で」(14:00) ●
○「韓国短編②」(19:00)
- ▼9月11日(土)
⇒ウィルホール
○「ヴィオンの妻」(10:00)
○「隠し砦の三悪人」(13:30)
○「ハート・ロッカー」(18:30)
⇒大会議室
○「映画の肖像 黒澤明 大林宣彦
映画対話」(10:00)
○「プレスト」(14:30) ●
○「大誘拐」(18:30)

韓国女性監督と語るトークサロン開催

本日17:00より
ウィルあいち3階

本日午後5時から「坡州(パジュ)」のパク・チャノク監督と「ミスにんじん」のイ・ギョンミ監督をゲストに迎えて、参加者の皆さんとフレンドリーに語り合うトークサロンを開催します。

「坡州(パジュ)」のミステリアスなラストシーンや「ミスにんじん」の主人公、赤面症の壊れキャラ、ヤン・ミンスクの真意は如何に。各作品の脚本も手がけた監督に直接聞いてみる絶好の機会です。h

その他、「坡州(パジュ)」主演の

イ・ソンギュン、「コーヒー ブリンス1号店」で日本でも人気俳優。「ミスにんじん」主演のコン・ヒョジン、本作で大韓民国映画大賞主演女優賞を受賞。さらに、二人は、今年、ドラマ「パスタ」の共演が中国で大人気を得て、中国エンターテインメントテレビ主催のアジア十大スター賞を韓国初受賞。

そんな注目を集める二人の素顔やエピソード、制作の舞台裏など、作品上映後のゲストトークでは聞けなかったお話を



パク・チャノク監督

1968年生まれ。 Hanyang (漢陽) 大学と Korea National University of Arts で映画制作を学んだ後、ジェネレーション・ブルー・フィルムズで短編作品を製作。数々の賞を受賞する。ホン・サンス監督作品『VIRGIN STRIPPED BARE BY HER BACHELORS (秘花〜スジョンの愛〜)』でアシスタント・ディレクターを務めた後に制作した長編デビュー作『嫉妬は私の力』は、ロッテルダム映画祭のタイガーアワード、釜山国際映画祭のニューカレントアワードなど数々の賞を受賞。『PAJU』は彼女の2作目の長編。



イ・ギョンミ監督

1973年、韓国ソウル生まれ。 Korean National University of Arts 卒業。2004年、短編作品『HOW IS EVERYTHING GOING』で、最優秀短編作品賞を総なめに。パク・チャノク監督に才能を認められ、『SYMPATHY FOR LADY VENGEANCE』(2005) でアシスタントを務める。本作品は彼女の長編デビュー作。

じかに聞くことができるかも。

コーディネーターは、当映画祭東京事務局代表の日比野幸子が務めます。

昼間と夕方の作品上映の合

間を利用した入場無料の交流イベントです。是非、ご参加ください。

▼日時 9月9日(木)17:00～

18:00 ▼会場 ウィルあいち3階会議室5 ▼定員40名

▼入場無料

映画祭初日 監督、俳優が多数登壇し会場沸く

昨日、映画祭が開幕し、韓国短編3作品を含む9作品が次々に登壇し、映画への想いや制作のエピソードなどが披露されました。また、観客からの熱心な質問も絶えず、会場は大いに盛り上がりました。

「レオニー」松井監督、中村獅童さん

とができ、また、存在感の大きさや色気、今回明治の男を演じるので着物が似合うので迷うことはなかった。」と説明。

一方、中村獅童さんは、「(野口は)上辺だけとらえると酷い男だが、その中に魅力を感じさせることに注意した。また、英語は大変だし、気持ちを入れなくてはならないので大変だった。それは歌舞伎にも似ている。」と演技を振り返ってコメント。



最後に、松井監督は、「レオニーの生き方は当時の時代では理解されないが、現代では理解され、話し合える話題。日本人の作った映画が、海外でも上映されるように考えたときに、とても良いテーマであり、レオニーに決めていた。」と作品に対する想いを語りました。



「ミスにんじん」イ監督とコン・ヒョジンさん

午後2時半からのウィルホール、「ミスにんじん」上映後、イ・ギョンミ監督が、作品のシナリオは、「(監督自身が、)恋に失敗し、片思いも両思いも上手くいかなかった。また、その頃、シナリオを上手く書くことができず、自分の思っていることを表現することの難しさを痛感し、まさに心の不満が最高点に達した時期だった。」と当時の心境を振り返りました。

そして、「自分の思っていることをどうして理解してくれないのだろうかという想いを考えながらこの作品を制作した。」と作品への想いを語りました。

主演のコン・ヒョジンさんは、

「役作りにとっても苦労した。いつも怒ったり、叫んでいる主人公だったので、しわが増えたのではないかと心配した。」と発言し、会場から大きな笑い声。

また、観客からの質問で、「好きな男性ができれば、どうしますか?」との質問に、「とにかく、長い間一緒に過ごし、周りの目を



気にしないでデートしたいな。」と語りました。

ゲストトークは、終始和やかな雰囲気になり、韓国語で質問する方もみえて、大変盛り上がりました。



「あなたのためならどこまでも」桂あやめ監督

桂あやめ監督は、2009年上方落語ファン感謝デーの「彦八まつり」で製作された本作で映画監督デビュー。

午後4時からの大会議室での作品上映後、桂監督は、「この作品は「落語家が落語家を演じる」ということを大切に撮影。本作で描かれている師匠や落語家仲間への愛や絆は、現実の落語界における人間関係そのまま。」とコンセプトを説明。

また、「鶴瓶、三枝、ざこばの3師を始め出演してくれた全ての落語家たちが、落語家仲間のためならばと、どんなに忙しく

表現できないものがたくさんあるから、やっぱり映像にしたって思うのかもしれないね」と抱負を語りました。



「情炎」吉田監督と岡田茉莉子さん

午前10時からの大会議室、「情炎」上映前の舞台あいさつに、吉田喜重監督と主演の岡田茉莉子さんが登壇。

吉田監督は、50年にわたる監督人生を振り返りながら、「戦後においても男性優位の社会の中で、やはり映画の中でも女性が男性に従属し、その欲求も満たすモノのような扱いられてきた。」と言及しつつ、「セックスとは男性と女性の間であって、またどちらのものでもないということを描くことで、女性からの抵抗という形を表現しました。」と作品制作の意図を語りました。

主演の岡田茉莉子さんは、

「(吉田監督を含め)これまでの出演映画の中でさまざまな女性像を演じてきましたが、この映画では、女性の性が強調されています」とコメント。

さらに、「昨年のハーバードでの上映で「時代を感じさせない」と高評価を受けたことにふれ、作品公開後40年以上たっても、



「この作品が、観客の方の想像力と映画が普遍的に「生きていく」ということによって、現代においても受け入れられる。」と笑顔で語りました。



韓国短編3作品 キム・ジニョン監督ほか



午後7時からの3作品の上映後、作品制作のきっかけなどについて各監督がコメント。

「Believe in Me」のキム・ジニョン監督は、「この映画を制作するに当たって考えたことは、「理解」です。高校時代は友人だった二人の女性、時が経ち環境が変わることで互いが変わっていきます。互いを理解しようとするが故に摩擦が起きてしまう。相手について考えればもっと

よい関係ができるのでは、という視点から生まれた作品です。」と発言。

「The After…」のチェ・ヒョンヨン監督は、「性的暴行殺人事件を女性の視点から描きたいと思い、実際に身近に起きた事件を参考にこの映画を製作しました。女性ならではの視点から、犯人が捕まっても被害者の恐怖心は消えないということを表現しました。」と発言。

「You Will Know」のキム・ヨンジェ監督は、「中学生の頃、この

主人公と似たような体験をしました。初めに抱いていた人間の真実を表現したいというテーマから拡大していき、大人とはどのような存在なのか、大人になるとはどういうことなのか、社会とは何か、という点を描いた作品です。」と発言。

キム・ジニョン監督からの「韓国の文化や感覚に基づき作られた3作品なので日本の人々に理解していただけるかが心配です。」という言葉に、観客からは次々と賞賛、激励の声があ

りました。

最後に、三人を代表してキム・ヨンジェ監督が、「観客の真摯な姿に私たちも新鮮な感覚を受けました。賞賛、激励の言葉を頂き、多くの力を得ることができたこと感謝いたします。」と語りました。

本日の上映作品&来場ゲスト

坡州(パジュ) Paju

パジュはソウルの西北部に位置し、軍事境界線を挟んで北朝鮮と対峙する街。近年はソウルのドーナツ化現象に伴いマンションの建築ラッシュが起きており、ベッドタウン化が進んでいる。

ニューカマーと地元民という二重構造は、再開発に伴う痛みを含んでおり、映画の冒頭に登場するビル撤去の反対闘争などは、90年代前半まで盛んだった、韓国の学生運動を彷彿とさせるものがある。主人公のジュンシクは学生運動崩壊で、かつては警察に追われる身であった。ウンモの姉と結婚して、一見安定した生活を送っているように見えるが、コーヒーを売るときもテントの中から出て、客の呼び込みをするでもなく、常にじっとしてい

る。このことは、警察に指名手配されていた頃の名残であり、知り合いや刑事に出会うのではないかという恐れによるものである。スクリーンに漂う閉塞感、北朝鮮と接する地であり、これ以上逃げ場がないという、ジュンシク的心情と重なって見える…(土田真樹 韓国在住映画ジャーナリスト)

パク・チャノク 監督
Park Chan-ok

1968年生まれ。漢陽大学と韓国芸術総合学校で映画制作を学ぶ。ホン・サンス監督作「秘花〜スジョンの愛〜」(00)助監督を務めた後、「嫉妬は私の力」(02)で監督デビュー。ロッテルダム映画祭タイガーアワード、釜山国際映画祭ニューカレントアワードなど数々の賞を獲得。7年ぶりの第2作「坡州(パジュ)」で釜山国際映画祭 NETPAC 賞を受賞した。



あぜみちジャンピンッ!

The Azemichi Road

言葉は…言葉がなしでは伝わりませんが、心は…心があれば伝わります

「あぜみちジャンピンッ!」は、コミュニケーションをテーマとした作品です。

私は海外に留学していた経験から、常々、マイノリティとマジョリティのコミュニケーションを題材にした作品を自分の作家としてのテーマとして掲げて作っていきたくて思っていました。この作品においては耳の聴こえない少女と健聴者の少女らとの交流を描いてあります。

私が特に観ていただきたい部分は、耳の聴こえない主人公の優紀が、健聴者で友人の麗奈とダンスを通して会話をしているシーンです。私たちはスタッフもキャストも、この無言のシーンを撮影するにあたり、それぞれが言葉に出来ない気持ちを交歓して

いたのだらうと思います。

また、会場の音響の室にも左右されますが、耳に障害のあるかたにも届くように、音の編集の段階において、特に振動を加えた部分があります。体でその振動を感じただけとうれしいです…(西川文恵 映画監督)

西川文恵 監督
Fumie Nishikawa

1978年生まれ。02年、ロンドン・カレッジ・オブ・プリンティング(現ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション)卒業。卒業制作「While you sleep」はヴェネツィア国際映画祭はじめ各国の映画祭で上映され、好評を得る。06年「あゝこころ〜Summer Memories」で劇場映画監督デビュー。翌年「soeur スール」を発表。第3作目の本作はシカゴ国際児童映画祭など多数の映画祭で受賞した。



愛その他の悪霊について

Of Love and Other Demons

アフロ・カリビアン風景

この映画の原作となったガブリエル・ガルシア・マルケスの同名小説は、彼の作品の中で、植民地時代の十八世紀を舞台にした唯一の「時代劇」だった。他の作品は実にもっと新しい十九世紀以降を扱っているのでは、この作品はことさらにテーマの難解さが目立つことになった。

侯爵の娘が市場で狂犬に噛まれた。医学的判断と宗教的判断が確然と分かれていない時代なので、狂犬病が疑われる一方、悪魔に取り憑かれているのでは、とも疑われ

た。その渾然とした疑惑から彼女は修道院に幽閉され、その中で、一瞬だけ愛の光に照らされたものの、結局は狂乱して衰弱して朽ち果てた。小説の作者は彼女が狂犬病だったのかそれとも悪魔憑きだったのか、わざとはっきりさせないまま作品を終わらせたのだ。

それに対して、自ら脚本を書いたイルダ・イダルゴ監督は、この点の解釈を明確にすることによって…(巨敬介 翻訳家・明治大学国際日本学部教授)



母の道、娘の選択

Mothers' Way, Daughters' Choice

罪悪感が生み出した連帯

笑い声とすすり泣き。私が、監督になって一番うれしい瞬間は、突然やってきた。

構想5年、製作に4年かかったドキュメンタリー映画「母の道、娘の選択」が、7月24日にNYで上映された。150人収容の劇場に立ち見までで盛況ぶり。私と映画を編集してくれた榎田尚代さん(岐阜市出身)は、劇場の一番後ろで立ち見した。すると、前半はガラガラとした笑い声、後半はすすり泣きが聞こえてきた。何千回と編集を繰り返した尚代さんと私は、思った以上の反応のよさに顔を見合わせて喜んだ。そして、どうしてここまで感動してもらえたのか

と考えた。

ひとつは、映画の中で、誕生から44歳まで成長していく私や、赤ちゃんから17歳まで成長していく娘を観ながら、そしてNYで壁にぶつかりながらも、たくましく生きていく女性たちを目の当たりにしながら…(我謝京子 映画監督)

我謝京子 監督
Kyoko Gasha

1963年、東京都生まれ。上智大学外国語学部イバニア語学科卒業後、テレビ東京に入社。1992年、フルブライトジャーナリストとしてミシガン大学ジャーナリズムフェロープログラムを終了。1993年に帰国し、テレビ東京に報道記者として復帰。2001年4月、ロイターに赴任し同年9月11日被災。2004年、フォード大学教育大学院卒業。2005年から本作の撮影を開始し、2009年に完成した。



プリンセス マヤ Starring Maja

その愛が真剣なら、ただひたすら突き進め!

マヤは18歳。高校卒業を控えて、『女優になりたい』という夢が膨らむ。しかし、マヤの住むスウェーデンの片田舎の町には希望も刺激もなく、夢を実現するのは難しい。本人はその気でも、極度

の肥満で、不器用で社会性もないマヤは周囲の笑いを演劇に対する愛情や真剣さをいくら語っても、田舎の素人劇団ですら主役はもらえない。昨今の日本のAKBやお笑い芸人ブームのように、美形では

なくても成功する例も多々ある。それでも、だ。マヤを見ていると思わず笑っちゃう。お人好しでドジな田舎娘。これが女優に? なんてジョーダンと誰もが思うだろう。

こうして見ているうちに観客は監督の術中にはまって行く。バカにされても騙されても諦めないマヤ。女優の夢が挫折しかけると、母親が救いの手を差し伸べる。母もかつては女優の卵だった。ラ

スト、スウェーデンのN01俳優、ロルフ・ラスゴードのカメオ出演が、マヤの明るい未来につながる…(渡辺芳子 ジャーナリスト)

テレサ・ファビク 監督
Teresa Fabik

1976年、スウェーデン出身。96年から98年にかけて、ストックホルム大学とStockholms filmskolaで映画制作について学ぶ。2001年、脚本・監督を手がけた短編「The Last Waltz」で数々の賞を受賞。2004年には、初長編映画「The Ketchup Effect」でイェテボリ映画祭のデビューアワードを受賞。本作は長編第2作目となる。



日本語短編

嘘つき女の明けぬ夜明け

A LYING WOMAN'S DAYBREAK

2009年/29分/監督・脚本/熊谷まどか
2009/29min/ Director, Writer: Madoka Kumagai

Producer: Tokio Takehira, Eiji Tsuyuki
Cinematographer: Shogo Ueno
Editing: Hideki Seino



STAFF
プロデューサー: 竹平時夫、露木栄司
撮影: 上野彰吾
編集: 清野英樹
Producer: Tokio Takehira, Eiji Tsuyuki
Cinematographer: Shogo Ueno
Editing: Hideki Seino

CAST
山下ゆりこ/宮本裕子
晴美(井当屋)/内田春菊
若崎貴子/佐藤玲子
Yuriko: Yuko Miyamoto
Harumi: Shungiku Uchida
Takako: Reiko Sato



閑静な住宅街でピアノ教室を開いていたゆりこは、自身の不倫が原因で優雅で自由な生活を失ってしまう。心機一転したゆりこは、小さな弁当屋で働き出し、過去と決別。しかし「不倫女」の噂がつかまとい……。PFFアワード2006 グランプリを受賞した実力派の最新作。

ホールイン・ワンダーランド

HOLE IN WONDERLAND

2009年/30分/監督・脚本・編集: 清水聡
2009/30min/ Director, Writer, Editing: Nao Shimizu

Producer: Kunihiko Tomioka
Cinematographer: Shingo Hirano
Music: Shoji Ikenaga



STAFF
プロデューサー: 高岡邦彦
撮影: 平野晋吾
音楽: 池永正二
Producer: Kunihiko Tomioka
Cinematographer: Shingo Hirano
Music: Shoji Ikenaga

CAST
智衣/花田優里音
孝太郎/澤田俊輔
祥子/宮川ひろみ
Che: Yurine Hanada
Kotaro: Shunsuke Sawada
Shoko: Hiromi Miyagawa



5才の少女チイは両親と祖父の家へ行くが、祖父は屋根裏から落ちて死んでしまう。死の意味が理解出来ないチイは、壊れた玩具を直してもらおうと祖父の屋根裏部屋に登る。そこには大穴の向こうに奇妙な世界が広がっていた。関西インディーズ映画界で鳴らした若手気鋭の作品。

アンダーウェア・アフェア

UNDERWEAR AFFAIR

2009年/30分/監督・脚本: 梶手由貴子
2009/30min/ Director, Writer: Yukiko Sode

Producer: Koji Ichihashi
Cinematographer: Hiromitsu Uehara
Editing: Yuji Oshige



STAFF
プロデューサー: 市橋浩治
撮影: 上原宏光
編集: 大重祐二
Producer: Koji Ichihashi
Cinematographer: Hiromitsu Uehara
Editing: Yuji Oshige

CAST
朝子 16歳/東加奈子
朝子 29歳/小野ゆり子
野澤淳平/山中崇
Asako age16: Kanako Higashi
Asako age29: Yuriko Ono
Junpei: Takashi Yamanaka



寂れた田舎に暮らす主婦・朝子は、保育園の園長である夫とは別居中。幼い息子と暮らしている。一方、少女時代の朝子は、母と妹と都会の狭く汚い団地暮らし。2つの時代、それぞれの思いがけない一日が交差する。「傷」「匂い」などフェティッシュな感性が鋭敏かつ瑞々しい。

